

研究主題 **豊かに生きる力の育成**
～自分を知り「なりたい自分」に近づくキャリア教育の実践～

1 単元名 「かぞく にこにこ 大きくせん」

2 単元の目標

家庭生活に関わる活動を通して、家庭での楽しみ、家庭における自分の生活や役割などについて考えることができ、家庭での生活は互いに支え合っていることが分かり、家族の一員として、自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けて生活したりすることができるようにする。

3 本単元の評価規準とキャリア教育を通して育みたい力（評価規準マトリクス）

低学年の基礎的汎用的能力（夢4）		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
人や社会と関わる力  【人間関係形成・社会形成能力】	・自分の思いを友達に伝える力	①自分で家庭生活に関わる活動を通して、家庭での生活は支え合っていることが分かっている。	①自分の作戦について、目的などに応じて伝えたいことや伝え方を選んでいく。	①家族が笑顔になるための活動やそれを伝え合う活動を通して、自分の役割を積極的に果たし、規則正しく健康に気を付けて生活したり、すすんで家族と触れあったりしようとしている。
自分をみつめる力  【自己理解・自己管理能力】	・周りからよいところを教えてもらい、自分のよさに気付く力	②家庭の温かさや自分の役割に気付いている。	②家庭生活に関わる活動を通して、家庭生活における家族のことや自分でできることについて考えている。	
課題をやりぬく力  【課題対応能力】	・自分のめあてをもつて実行する力		③自分でできることや家族が喜ぶことを見付け、家庭生活が楽しくなるように考えることができる。	②家族がにこにこになってほしいという願いをもって、自分でできることに繰り返し取り組んだり進んで家族と交流したりしようとしている。
次につなげる力  【キャリアプランニング能力】	・自分の課題に気が付き、次に生かそうとする力		④これまでの自分の計画について、目的に応じて伝えたいことや伝え方を選んで紹介し合い、自分の役割について意識して頑張りたいことを表現している。	③自分の役割を積極的に果たしたり、規則正しく健康に気を付けたりしようとしている。

※キャリア教育と関連が密接なものはゴシック体・太字

4 部会提案

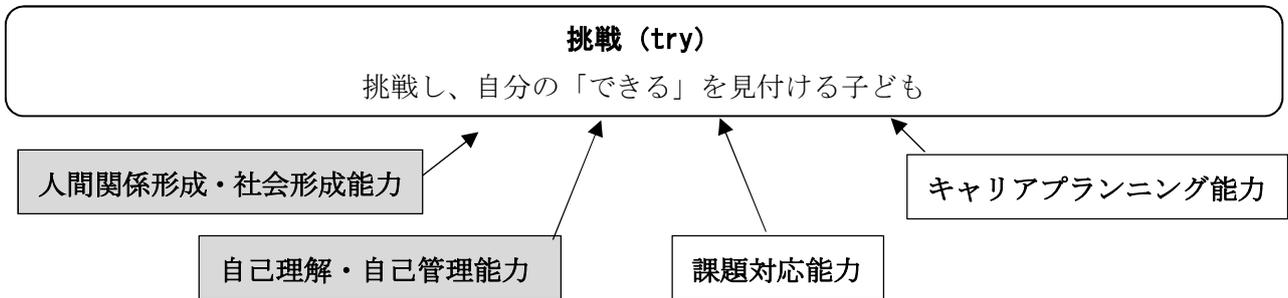
(1) 児童の実態と単元観

入学時に比べ、自分ができることが多くなった。当番や係活動では、友達のことを手伝う・責任をもって仕事をやり遂げる姿が見られる。一方で自分の仕事のことでいっぱいとなり、「自分を見つめる」「今までの自分と比べる」など自分自身を振り返ることをあまりせず、物事に取り組んでいる。

本単元は、家族が今まで自分のためにしてくれてくれたことや思いを知り、自分を見つめて「家族のためにどんなことができるのか」考える活動が何度もある。自分のためだけでなく、家族や他者との関わりや、自分の決めたことをやり遂げることで、家族が喜ぶことを十分考えられる単元であるといえる。

キャリア教育の視点では、この単元を通して「自己理解・自己管理能力」を育てていきたい。そのために、本単元を通して家庭生活を送る上で自分が家族のためにできることを見付け、決めたことをやっていく力を身に付けさせていく。また、家族のためにできることを話し合ったり、友達の取り組みを知ったりすることを通して、「人間関係形成・社会形成能力」を育てていきたい。

(2) 低学年の目指す児童像と本単元と重点となる基礎的・汎用的能力



(3) 目指す児童像を実現するための手だてと関連する夢4

<p>【手だて1】：意欲的に活動しようとする主体性（＝挑戦）を引き出すために</p> <p>○自分事として捉え、意欲につなげられる活動内容の工夫</p> <p>本時の前に「かぞくにここに大きくせん」を行う際に、お手伝いだけでなく、自分のことをしっかりやる、家族が笑顔になるイベントを考えるなど様々な視点をもって取り組むようにする。本時ではどのような思いをもってできることに取り組めば「もっとにここに」になるのか考える手だてとする。</p> <p>○仕事をするための環境づくり（家庭との連携）</p> <p>学習のねらいや意図を明確にし、事前に保護者会やお便り等で各家庭にお手伝いの周知をし、家庭と連携を図り、協力を呼びかける。「家族の笑顔のためにやりたい。」という児童の自発的な思いを大切にしたいという旨を、保護者には十分に理解を得ておく。児童が自分自身の作戦を客観的に判断できるようにするために、保護者にはできたことだけでなく、できなかった・もっと頑張ってもらいたいことを書いてもらうようにする。</p>	<p>【夢4】</p> 
<p>【手だて2】：自分のよさや成長（＝自分の「できる」）に気付かせるために</p> <p>○学級活動の振り返りを生かした、互いを認め合う雰囲気作り</p> <p>話し合い活動や発表活動では、互いの意見や考えを尊重し、認め合う雰囲気を大切にしていける。1学期に行った学級活動で書いた「もっとみんなとなかよくなるよう」のカードの内容を生かし、自分のできたことを友達に認めてもらったり称賛されたりする活動を取り入れ、自分の「できた（できる）」ことへの達成感や喜びをより実感し、自己肯定感を高められるようにしていく。</p>	<p>【夢4】</p> 

5 指導計画 (全9時間)

		学習内容	主な学習活動	◆指導上の留意点	【評価規準】 基礎的・汎用的能力
学習課題をつかむ	1	学習の見通しをもつ	○家の人が家でしていることを観察し、どういう時に家族がにこにこするのか話し合う。	◆家族と一緒に楽しかったことなどを思い出し、伝え合えるようにするために、一人一人の家庭環境を十分に把握し、言葉掛けなどに配慮する。 ◆家庭との連携を図るため、保護者へ事前に活動のねらいや内容を説明し、理解と協力を得ておく。	【知・技②】 
	2	にこにこするための作戦を考える	○にこにこした場面进行分类する。 ○家族がにこにこする場面から、自分の家族の役割について気付く。 ○自分が家族のためにできることについて作戦を考える。 ※ワークシート	◆多様な家族構成や家庭環境を認め合い、自分が <u>家族の一員として自分ができることを考えるようにする。</u> ◆ <u>家族が家庭のために果たす役割や仕事が、自分とどのように関わっているかを考えさせ、自分ができることをやってみたいという意欲をもたせる。</u>	【思・判・表①】  【主②】  【思・判・表①】 
高める	3	大作戦を考える	○家庭の中で自分のできそうなこと、やってみたいことを考える。 (チャレンジ1) ※ワークシート	◆1回きりではなく、 <u>継続して取り組める仕事や役割を考えるように促す。</u>	【思・判・表②】  【主③】 
	4	大作戦を振り返る	○家庭で行った仕事について挑戦したことを振り返る。	◆活動意欲が持続するように、活動期間中も、取り組みの様子を尋ねたり、報告する場を設けたりして支援をする。	【思・判・表①】  【思・判・表①】 

	5 (本時)	大作戦を考え、伝える	○家族が喜んだり、家庭生活が楽しくなったりするために自分が家族のためにできることを考える。	◆ <u>自らすすんで仕事を行ったり、役割を担ったりする中で、家族が喜んでくれることを考えられるようにする。</u>	【知・技①】 
	6 7	大作戦を振り返る。	○「かぞくにここに大きくせん」で行ったことや分かったことを発表する。	◆ <u>家族からのコメントの発表など、多様な表現方法を提示し、児童の思いや願いから、選べるようにする。</u> ◆ <u>少人数グループやペアなど何度も発表する。多くの友達から感想をもらえるように発表方法を工夫し、自分に自信がもてるようにする。</u>	【思・判・表②】  【主②】 
深める	8	活動を振り返り、手紙を書く	○分かったことを伝え合い、家族への手紙に表す。 ※ワークシート ○家族からのコメントや1回目、2回目の作戦を思い出し、活動を振り返る。	◆ <u>活動を振り返り、仕事や役割を継続してできたことを価値付け、自分自身が成長したことに気付かせる。</u> ◆ <u>一人一人の気付きを交流し、それぞれを関連付けたうえで、これからも家庭での役割をすすんで取り組んでいけるようにする。</u>	【思・判・表②】  【思・判・表③】 
	9	これまでの活動を振り返り、できるようになったことを伝え合う	○これまでのことを友達と伝え合い、自分自身の成長を振り返る。 ※ワークシート ○今後の生活の中で、家族と一緒にやってみたいことなどについて話し合う。	◆ <u>単元の振り返りを行い、できるようになったことの発表を通して、自分の良さや成長に気付かせる。</u>	【主①】 

※波線はキャリア教育の視点

7 板書計画

㊦ かぞくが もっとにこにこになれる
さくせんを かんがえよう

おしごと

- ・さらあらいをする
- ・そうじをする
- ・ゆうはんのじゅんぴ
- ・ゴミ出しをする
- ・

それいがい

- ・かぞくとはなすじかんをつくる
- ・じぶんができることをする
- ・しゅくだいをわすれない
- ・かぞくがこまっていたらたすける
- ・マッサージをしてあげる

◎もっとにこにこ大きくせんを
かんがえよう

ていねいに じぶんからすすんで
じかんをまもって まい日わすれずに